

日本農業新聞

参院外交防衛委 主なやりとり

TPP協定案を審議した5日の参院外交防衛委員会の主なやりとりは次の通り。

【国内手続きの進捗】
杉久武氏(公明) 各国の国内手続きの進捗(しんちやく)状況は。

山野内勲二・外務省経済局長 メキシコは先日国内手続きを終えたところ。オーストラリア、ニュージーランドでは議会審議が始まるなど、各国での手続きが順調に進んでいる。

【牛肉セーフガード】
藤田幸久氏(国民) 米

河野太郎外相 TPP12協定の発効時、参加国を対象とした新たなセーフガードが導入される。輸入牛肉

の2016年度実績の99.8%が(対象として)カバーされることになる。

【TPP再交渉】
牧山弘恵氏(立憲)

(米国が求めるTPP再交渉について)政府は「不可能だ」と言っていた。しかし、最近「極めて難しい」と可能性を否定していない。

河野外相 再交渉は極めて困難だと安倍首相や私から述べている。

牧山氏 なぜ再交渉は不可能と断言しないのか。協

定本体はいいらないが、米国内にサイドレターで見返りを与える可能性はあるか。

山野内局長 米国からTPP参加の意向が示された場合の具体的対応について、現時点で予断を持って言うのは差し控えたい。

【日米の2国間交渉】
井上哲士氏(共産) 米国は日本に、(TPP離脱に伴う)競争上の不利を挽回するため、それ以上のもの(TPPを超える市場開放)を求めてくるのではないか。

河野外相 TPPが日米

両国にとって最善。農業分野について米国に対し、TPPでの譲歩が、わが国最大限のものであると伝えている。

井上氏 (米国による日本車への制裁解除の見返りに)食の安全や農業が取引材料にされるのではないかと多くの国民が懸念している。このことは議論しないと明確にしてほしい。

渋谷和久・TPP等政府対策本部政策調整統括官 議論の対象は、今後日米で調整していく。